ことであるが、幼稚園の遊戯的保育に於て、之れが多少利用されて居る如く、小學校殊に其の初級に於ては、學課の種類によつて此の利用必ずしも困難でないと思ふ。但し、戯曲模倣とは必ずしも兒童に芝居をさすといふことではない。最も廣く之れを定義すれば、知覺によりて得たる處を構成的に實行するといふことである。遊戯的に、兒童自ら種々の模倣的動作をさせることも有益であらうし、又箱庭、「サンドアップ」の如き構造製作をさせることも有益であらう。

此他、兒童の模倣に就き注意すべきことは限りなく多いであらう。併し、吾人の特に茲に繰りかへして注意し度いことは、教育上、模倣性の研究を。たゞに外から兒童に作用する外圍の問題に限らないで、兒童精神發達に重要なる一つの内的活動として、之を如何に益々發達せしむべきか（取締るのみでなく）、又教育上如何に利用すべきか（警戒するのみでなく）の方面に進め度いことである。

一〇

遊戯上に現はれたる幼兒の模倣性

和田實

物眞似をすると云ふことは、何も幼兒に限つたことではないけれども、眞似の由つて來る取を採り模倣の心理を研究する爲めには、幼兒の模倣的行爲を觀察することは最も適當なことである。殊に幼兒の自發自由なる其遊戯的活動に就いて之れを觀察するときは一層其眞相を理解するに鄕合がよい。そこで別段まとまつた意見とてはないけれども、氣の付きたるまゝの事實に就いて二三記述して見やうと思ふ。

一、最初の模倣（直覺的）

由來幼兒の物眞似と云ふものは、隨分早くから現はれるものである。若し見る人があるならば生れて數週間の後には既に其萠芽の出現を見るに相違ない。ブライエル氏は生後十日ばかりの時に口

先を尖がらすことを眞似させたと云ふことである。併し幼兒の模倣が素人目にも能く判る樣になつて來るのは、生後數月の後である。余の長男の例に因つて見ても、其明に模倣であるなと認めらるゝ樣になつたのは、生後の四ヶ月であつた。諸家の記錄に因つて見ても、大凡そ此頃から、誰にも判る樣な物眞似を初めて、漸次其行動を複雜にし、一年の終頃となつて一層其種類を增加する樣である。且此頃になると、其模倣の心理は餘程複雜の度を加へて居る、故に是迄を第一期の模倣時代とすれば、是以後のは第二期の模倣とでも云はねばなるまいと思ふ。何故と云ふに、是迄の模倣と云ふものは、主として直觀を其儘反射的に繰返すと云ふことが普通であつて、母親が障子をはたいた夫れが面白いとて眞似をしたり、父親が風鈴に手を觸れて鳴らしたのが氣に入つたとて自ら之を繰り返したり、或は工場の汽笛を聞いて、靜かなうなり聞を出して其に和して見たり、或は騎馬の人を見て抱かれたるまゝに兩足を蹈ん張つて躍り上つたりする樣な類である。生後一年間の模倣と云ふものは概ね此外に出ることがない。尤も茲に注意して置かねばならぬことは、所謂第一期の模倣と云ふものが反射的であるからと云ふて、生後唯始めて經驗したる事に對して、直接之れを反復して遊び得るものでない。幼兒が後には進んで模倣しやうとする類のものも、初めて夫れに出會はした時には、未だ容易に手をば出さない。そして少くも一二回、多きは數回の間、唯熱心に之れを凝視して其の活動を觀察する此觀察が稍進步して興味益亢進するといふことになると、次には機會あり次第に愈之れを實行する樣になるものである。尤も時に或は全く無經驗の事項に會して唯一度で直に之れを模倣することがないではない。例へば父親の買つて來た土產の喇叭を見、唯一回鳴して聞かされた丈で直きに之を取て吹かんと試みる樣なのは之である。が、併し、斯る場合でも能く調

べて見ると、其動作が其彼自身の既に爲し能ふ所のもので、模範を見ると云ふことでは初めてゞはあるが、實行と云ふことは決して初めてではないことが知れる。卽ち幼兒の模倣と云ふものは、一番最初に模範を示してから、少くも數回反復の後でなければ之れを實行せしむる迄には至らぬものである。此の點から考へても四五才の幼兒を捕へて、唯一回だけ模範を示すことに困つて直に之れを實行させ樣とすることは、思はざるの甚たしきものであると云ふことが出來る。故に高い〳〵を敎ゆるにしてもチヨチ〳〵を敎ゆるにしても、初めてから敎へ樣と云ふ考で掛つては、ツイ性急になつて子供に無理をする場合が多い。けれども單に斯る動作を示して幼兒の觀察的興味を滿足せしむるを以て目的とすると云ふ風になれば、數日數十日の後には譯もなく實行し得て、極めて愉快氣に活動するのである。從つて此直覺的模倣時代に於ては或動作とか或活動とか云ふ類のものを幼兒に敎ゆると云ふことは無論目的とすることは出來ぬ。唯善き模範を示し善き活動を示して、內界の空隙を充して置と云ふ覺悟でなければならぬ。

二、聯想的模倣

直觀を卽時に其儘反復するとも、漸次に複雜の度を加へて來ると共に一方にはまた時間の上に伸長を加へて來る。直覺的模倣の特長は現在の直觀を反複するのであるが、幼兒の觀念が聯想的活動を爲し能ふ樣になると共に一刺戟に伴ふ聯想を得る、此聯想されたるものを實現して模倣する樣になる之が余の所謂聯想的模倣である。幼兒の滿一年に達せんとする頃ともなれば「オウマ」と云ふ名辭を聞くと共に兩足を蹈張つて「ハイ〳〵」の眞似をなし、或は玩具の犬に己の手にせる菓子を與へんとするが如きは此類例で、幼兒の模倣が第一期より第二期のものたらんとする中間の架橋たるものである。

三、記憶的模倣

過去の記憶を再現して、其觀念の內容を實現せんとするので、幼兒の模倣的行動の第二期を占むるものである。其等しく聯想の結果に過ぎぬものである所からして、分類上から云へば、前記の聯想的模倣の中へ包含せしむるか、或は前者を此記憶的模倣の中に入るゝか、何れ學者に因ていろ〳〵に取扱はれるには相違ないが、實際に幼兒を觀察して見ると一概に一樣視することは出來ぬ。此種類の模倣は、之を前の聯想的模倣に比するときは、一層其復雜の度を異にして居る。一例を上げて見れば、余の長男は一年二ヶ月の頃、次の樣な事實を其の養育日記中に殘して居る。曰く、

「父の出勤後脫ぎ行かれしチョッキを母の片付けんとせしを見て、それを着させよとてか頻にチョッキを見ては自分の肩を指す。之を着さすれば、頓て又傍にありし、同じ父の胴着をも着させよと云ふ。之をも着せしに、今度は上に掛りし父の襟卷をよこせと云ふ之をも首に卷き遣りたれば、いと滿足げにニコ〳〵と笑みつゝ、座數中を歩るき回はり、果ては好きなる喇叭を持ち出して、得意氣に吹きて行く、其姿の無邪氣にて愛らしく面白きには覺えず失笑。

是は前の單に名辭に因りて其もの、活動を聯想したり、玩具の犬を實物扱にしたる。犬の模倣に比しては、餘程復雜したるものである。而して其種の模倣的遊戯は其分量に於ては非常に多い。通常人の云ふ幼兒の模倣と云ふのは、主として此類のものである。卽ち日頃經驗する所の一團の觀念を思ひ起して更に、是を玆に實現せんとするので、此種の模倣は幼兒の二歲頃より始まつて三、四、五、六歲の頃には最も盛んに現はれる。勿論夫れから後に於ても決して全體の模倣力が衰へると云ふ譯ではないが、此時代に於て主として人の日常行爲の大部分を模倣し盡くすが故に、見る人をして如何にも幼兒と云ふものは眼を皿の樣にして大人の行爲を注意し、以て模模の材料を漁らんとし

て居るかの樣に思はれるのである。實際此時代の幼兒と云ふものは、其筋肉の發達も漸次に精緻を加へて、活動は隨分巧妙となつて居るのであるが、唯不足なのは活動の形式である。然るに大人は長年の經驗に因つて種々なる活動の形式を有して居る。故に幼兒が此形式中に自己の知らざる新奇なものを發見するや、得たり賢しと之を模倣して其活動感を滿足せしめて居るのである。斯樣にして幼兒の眼が絶えず大人の行動に注がれる故に、時に大人の不注意の影を遠慮なく寫し出して、人をして喫驚せしむることがある。

或人の女の四歳になるは、父親が常に寢ころびて新聞を見るのを見て彼女が新聞を見ときは、必ず寢ころぶので困つたと云ふことである。余が親戚の六歳の男兒は其父が食事をしながら新聞を見る癖を眞似て、食事と云ふと能く新聞を持ち出して來て、傍に置いたことがあつた。幼稚園などを參觀して見ると、何處の幼稚園でも砂糖屋遊び、まゝごと遊び、其他電車ごつこ、汽車ごつこ、さては軍ごつこ、學校ごつこなどの絶えないのは素張らしいことである。嘗て市内の某幼稚園で一ヶ月間の幼兒の自由遊びを調べたのを見たのに、悉く皆是れ八百屋遊び、魚屋遊び、軍ごつこ、電車ごつこ等の模倣遊戯であつたのには實に驚いた。殊に其中に泥棒ごつこ、泥酔ごつこ、喧嘩ごつこなんどの等しく列擧されてあつたのは尠からず驚かされた。是は極端な例で幼兒が一ヶ月間の長きに亙つて模倣遊戯の外他の自由遊を採らぬと言ふことは、少く其保育法の上に何等かの缺點の存するに非ざるかの疑念を挾さまざるを得ぬ次第ではあるが。然も幼兒が根能く單に模倣遊戯を續け行つて滿足して居ると云ふのを見ても、如何に此時代に於て模倣遊戯が盛んであるかゝ判る。從つて此時代の模倣遊戯の内容は、隨分多方面に亙つて居る。まゝごとやおばさんごつこの如き家庭的行事があり、電車、汽車、八百屋、砂糖屋、大工、左官等有ゆ

る職業的内容があり。祭禮、葬式、樂隊、廣告等の社會的出來事があり、ウオーターシユート活動寫眞等の興業物があり、其他千種萬樣殆んど限りがない。幼兒は是等限りなき材料に因つて、其身心の活動を限りなく多方面に練習しつゝあるのである。殊に砂や粘土を以てする模倣的土工作業の如きは、幼兒の發達上最も尊む可き筋のものである。斯樣にして此種の遊戯が盛に行はるゝ樣になれば、幼兒の模倣力は大なる發達を受けて、次には敎師の敎へんと欲する事項を容易に且速に之を傳授することが出來る。否、子供は敎師の敎ゆる所のものを速に且容易に之を模倣することが出來る樣になるものである。

四、構想的模倣

幼兒の記憶的模倣が盛んに行はれて、心身が稍多方面に練習せられた曉になると、最早現實的なる事實の再現的模倣を遣つて居つたのでは、生理的活動欲の上には兎も角、尠くも心意上には不足を感じて來る。茲に於てか更に現はれ來るものは、此構想的模倣である。構想的模倣と云ふのは、現實ならざる想像觀念の實現である。卽ち想像したる事實を現實に模倣するので、或はお伽話を聞きて、其內容を其まゝ眞似る所の芝居じみたる行爲、若しくばお醫者遊び家庭遊びなど云ふ記憶的模倣の想像に因りて一層まとまりたる形となりたるものを云ふのである。故に此種の遊戯の發達の極は、遂には純然たる演劇にまで達せずには居られぬ。從つて、或は果して幼兒乃至兒童に遊戯として許す可きものであらうか否かを疑ふものさへある。勿論純然たる劇となりたるものに就いては、今茲に論ずる限りではないけれども、夫れ程迄に至らぬ遊戯たる以上は別段禁止するの必要を認めぬ、否寧ろ或點迄は他の遊戯同樣充分敎育上に利用することの出來るものである。又幼兒の側から見ても。此程の遊戯を絕對に禁止するが如きは壓制の事と云はざるを得ぬ。吾人の經驗する所に因

しば、幼兒七歲に達すれば男兒は軍ごつこ、女兒は社交遊びをなさでは居られぬものである。彼の下層社會の子供の中に泥棒ごつこの絶えぬも、軍ごつこ同樣未經驗の場合を構想して之を模倣することの興味が之を助け居るや疑ひない。斯樣にして男女共にお伽話を芝居にしたる如きこと、(所謂お伽芝居にあらず)を實演するの興味は、何人にも存するものである。吾人は之を敎育上に利用して、幼兒の興味を滿足せしめて、高尙なる趣味を養成すると共に、幼兒の模倣力をして、單に現實的直觀的にのみ捕はれずして、深く無形的概念的活動をも理解し模倣し得しめんと欲するものである云ふ迄もなく、之が實行の方法に至つては、種々なる方面に向つて其弊害を生ぜざる樣注意するの必要がある。其注意の仕方等に就いては多少の考もないではないが、少し問題外になるから又の時を期するとしやう。

以上は幼兒に現はれ來る模倣的行動の大要である。尙實際の統計やら具體的遊戲の實例やらを列擧することも大に必要ではあらうと思ふけれど餘り管々しいから御免しを蒙ることに致しませう。

フレーベル館主嘆じて曰く

某校の生徒歸路弊館に立ち寄り玩具を取り出していちろこと常なり或る日例の如く尋常一年の兒童五六人來りて劔と鐵砲とを出し或は大將だとか或は少佐だとかとてふざけ居たり余亦庭に下りて其の相手をすること數分偶々陸軍少將偕行社よりの歸途愛孫の土產を求めんとて靴音高く入り來らる。

一人兒童「おやほんとの大將がこられたよ」と云ふや否や人は姿勢を直し擧手注目の禮をしたそれで外の子もども亦之に倣ふて一同敬禮をしてそして劔を帶べる一兒は忽ち之を拔きて指揮の姿勢を取るや否や「前へ進め」と號令をかけたる其の聲や頗る勇大であつた而して曰く「大將甘いかネ」と陸軍少將は笑はざらんと欲するも能はざる面地で微笑を堪えながら「ウ、甘い」其間に一人の兒は少將の側に行きて劔を比べ「やはり大將の劔が立派ネ」とやつたすると少將は其の子の頭を撫でた、其の內「大將をからかつたりなんがするとひどいぞ歸ろ〳〵」と云ふものが出來た、皆揃つて「歸ろ〳〵」と又一同「失敬」と云ひながら擧手して弊館を出た少將は其の後姿を見送つて居つたが群兒は川上大將の銅像の方に走つて行つた。

頓がて少將は頭を傾け「まだおれをからがつた子供はない、某校の躾け方には一風違ふ所があるわい。何う云ふ風にやるか知らん、あの下に一人位は大將も出るだらうよ」と大變に賞讚された之を見て居つた我輩も實に氣持がよかつた。とは館主が贊嘆の言葉である。